

(12) 沖縄



沖縄地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、このところ弱い動きとなっている。

- ・ 観光は弱い動きとなっている。
- ・ 個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回からの主要変更点

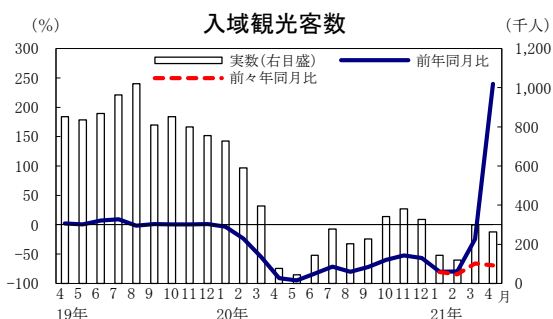
	前回（令和3年3月）	今回（令和3年6月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いていたが、このところ弱含んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、このところ弱い動きとなっている	↓
観光	このところ弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	→
個人消費	このところ弱含んでいる	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	↓

1. 観光の動向

観光は弱い動きとなっている。

1－3月期の入域観光客数は、前年同期比67.2%減となった。国内客は同61.5%減となり、外国客は入国制限措置の継続等により皆減であった。月別でみると、1月は前年同月比80.2%減、2月は同79.9%減、3月は同24.5%減となった。4月は同239.7%増（ただし前々年同月（新型コロナウイルス感染症発生前）比では69.2%減）となった。

1－3月期のホテル稼働率は、前年同期差36.3%pt減となった。



入域観光客数等の動向

	2020年 7-9月	2020年 10-12月	2021年 1-3月	2021年 4月
入域観光客数 (千人)	708	1,049	562	263
(前年比, %)	▲74.7	▲56.4	▲67.2	239.7
ホテル稼働率 (%)	27.3	46.0	22.1	—
(前年差, %pt)	▲53.2	▲27.0	▲36.3	—

- (備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。
3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

2. 個人消費の動向

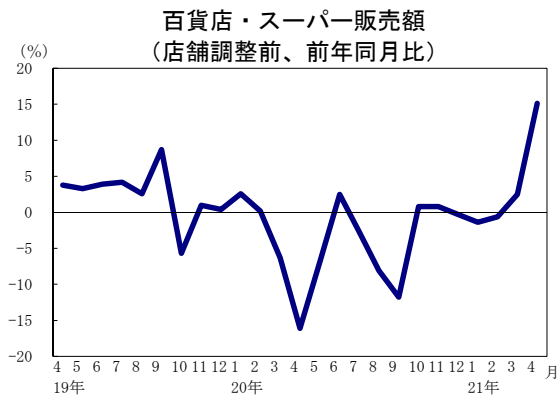
個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

1－3月期は前期比0.9%増となった。月別にみると、1月は前月比2.3%増、2月は同3.9%減、3月は同0.4%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10－12月期は前年同期比0.4%増、1－3月期は同0.1%増となり、増加幅が縮小した。月別にみると、1月は前年同月比1.4%減、2月は同0.6%減、3月は同2.5%増となった。



	2021年1-3月	2021年1月	2月	3月	4月
RDEI（消費*1）	0.9	2.3	▲3.9	▲0.4	—
百貨店・スーパー*2)	0.1	▲1.4	▲0.6	2.5	15.1
コンビニ*2)	▲0.2	▲2.4	▲0.9	2.9	—
乗用車*3)	▲4.4	8.9	▲17.7	▲1.1	▲13.4
(季節調整値)*3)	▲12.4	12.0	▲20.1	10.1	▲19.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

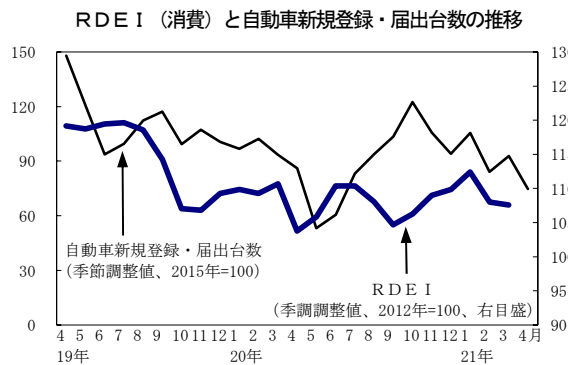
2. 前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは経済産業省調べ（店舗調整前）。

コンビニは日本銀行那覇支店調べ。

2021年4月は速報値。

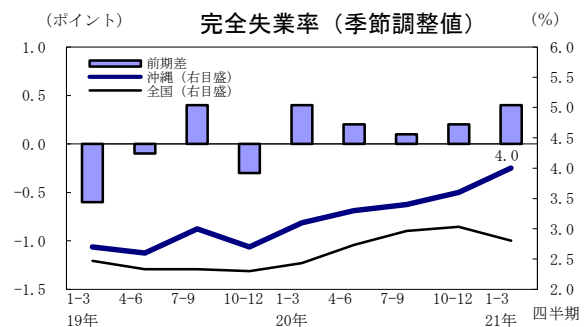
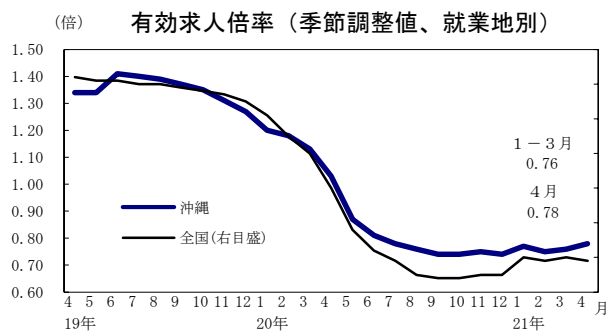
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年4月調査) 景気判断理由の概要

12. 沖縄

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・ 新年度に入り、賃貸物件の移動時期でもあるので3～4月の売上は新型コロナウイルス発生以前の例年どおりに見込めるが、売買物件は良いともいえない(住宅販売会社)。
			・ 夏場の需要に向けたレンタカー会社からの受注が、例年ほどではないが入ってきている(乗用車販売店)。
		×	・ 前年は巣籠り需要により景気が良かったので、その反動が今月は大きく出た感がある。販売量と来客数も減少している(スーパー)。
	企業 動向 関連		・ 新型コロナウイルス発生以前と比べて悪いのは変わりがない。3か月前と比べても悪くなっている。まん延防止等重点措置や大都市の緊急事態宣言の影響で宿泊客数が減少している。また、飲食部門は会議昼食が僅かで、夜の宴会は0件である(観光型ホテル)。
			・ コロナ禍の状況が1年続き、経営上は低位の状況で継続しており、今より下がりようもないが、逆に好況となる要因もない(会計事務所)。
			・ 3か月前と比較し、見積依頼が公共、民間工事共に若干増加傾向にある(窯業土石業)。
雇用 関連		・ 前月に引き続き売上は順調に増加している(食料品製造業)。	
		・ 当社自体は好調な数字になってきたが、新型コロナウイルスで売上、利益が伸びている会社と、逆に以前より厳しくなっている会社と企業環境の2極化を感じる(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント			・ 新年度を迎えたが、再度新型コロナウイルスの影響がある。企業はまん延防止等重点措置など社会動向の様子をみているようである(学校[大学])。
			： 予約を受けたり取り消したりを1年以上繰り返している。空仕事ばかりで経費ばかり掛かり利益も出ない(旅行代理店)。
		×	： 今月上旬は県独自の時短要請、12日からはまん延防止等重点措置、25日から主要都市の緊急事態宣言発出と、目まぐるしい1か月で、来客数、客単価の減少幅が大きい(コンビニ)。
先行き	家計 動向 関連		・ 正直なところ新型コロナウイルス次第である。あとは飲食ばかりではなく、他業種への持続化給付金や国民一人一人への特別定額給付金などの再給付でもない限り、全体の景気回復は難しいのではないかと(衣料品専門店)。
			・ 月初めは3月からの好調が続いていたが月後半になると客足も落ち着いてきている。今後伸びる要因もないので今月の好調の維持は難しいとみられる(通信会社)。
		×	・ これだけ飲食がたたかれると、スタッフの採用にも影響が出ており、維持のための採用もままならない状態である。売上が立たない分は借金でまかなってきたので、元金返済が始まると多少景気回復したくらいでは追いついていけない(その他飲食[居酒屋])。
	企業 動向 関連		・ モデルハウスに来場しても、具体的な商談に進む客がバタッと止まった(建設業)。
			・ 前年の巣籠りによるスーパー方面への大幅な売上増加はないものの、堅調な売上増加がみられる(食料品製造業)。
	雇用 関連		・ 採用を停止又は抑えている企業や、ホテル、観光業界全体が求人再開をするまでにはまだ時間が掛かるとみられ、現在と同数程度の求人数になると予測している(求人情報誌制作会社)。
その他の特徴 コメント			： 先行きの予約状況は一昨年比50%前後と厳しい状況が続いている。現状の新型コロナウイルスの感染状況から今後も観光関連の回復は見込めない状態であり、行政の早急な支援、対策が必要である(その他サービス[レンタカー])。
			： 新型コロナウイルス変異株のまん延による影響を危惧する県内企業が多く、販促活動を縮小又は見送るケースもあることから、しばらくは現状のまま低迷する景気が続くものとみている(広告代理店)。

(D I) 現状・先行き判断D I (沖縄) の推移 (季節調整値)

